

日本学術会議シンポジウム

野生動物の保全と 共存へ向けて

2014年2月9日(日)

時間 / 14:00~17:30

事前申し込み不要

会場 / 日本学術会議講堂

港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線乃木坂駅徒歩1分

入場
無料

開催主旨

現代は生物史上例のない大量絶滅時代ともいわれ、生物多様性をいかにして保全し、人類の持続的発展をはかるかが国際的課題となっている。特に哺乳類を始めとする中・大型動物(ワイルドライフ)は、生息地破壊や密猟のため、その多くが絶滅危惧種となっているが、寿命が長く行動範囲も広いため研究や保全が遅れている。ワイルドライフの保全には、研究技術の高度化、長期調査と現地専門家育成、飼育・半飼育・野生での研究・保全に必要な施設と保護区の整備などに加え、人間-動物間の軋轢を緩和し、動物と共存しながら持続的に発展できる社会システムの構築が不可欠である。つまり科学研究のみならず、人類学、社会学、地域研究など、人文・社会科学も含めた、文理連携による総合的学問領域「ワイルドライフサイエンス(野生動物保全学)」の創生が求められている。本シンポジウムでは、現在野生動物が置かれている現状を踏まえ、新しい観点からいかなる保全と共存の試みがなされるべきかについて、新しい提言をもとに考えてみたい。

司会/趣旨説明 —— 山極寿一(京都大学理学研究科教授)

- 日本におけるワイルドライフ・マネジメントの過去と現在
三浦慎悟(早稲田大学人間科学部教授)
- 人獣共通感染症の脅威とその対策
吉川泰弘(千葉科学大学副学長)
- 世界の野生動物保全とフィールドミュージアム
幸島司郎(京都大学野生動物研究センター教授)
- 野生動物の生態と人間圏
長谷川真理子(総合大学院大学先導科学研究科教授)

討論者 —— 松沢哲郎(京都大学霊長類研究所教授)
長谷川寿一(東京大学理事・副学長)

主催/日本学術会議ワイルドライフサイエンス分科会

共催/日本哺乳類学会、日本霊長類学会、京都大学霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院